

第156回 伊丹市内企業の景気動向調査

<調査対象> 伊丹市内の主要企業 150 社
 <調査方法> 郵送によるアンケート調査方式
 <比較方法> 景気動向については「直前期」、経営動向については原則として「前年同期」と比較
 <有効回答数> 150 社中 62 社（一般 25、食料品工業 6、商業 9、建設業 8、運輸業 7、サービス業 7） 回答率 41.3%

調査結果

【伊丹市内企業の経営動向について】

産業別DI（景気動向指数）とは…それぞれの調査項目に対してプラス傾向（増加・好転など）の回答割合からマイナス傾向（減少・悪化など）の回答割合を差し引いたもの。

景況天気図					
	晴れ(好調)	曇り		雨(不振)	
DI 値	+30	+10	▲10	▲30	

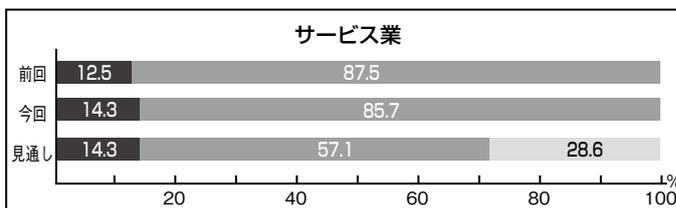
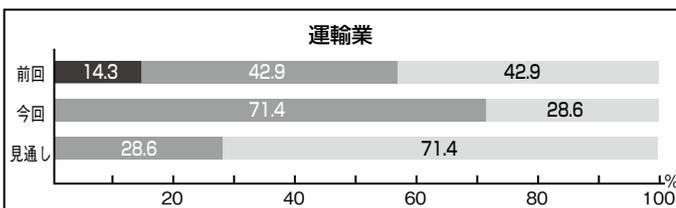
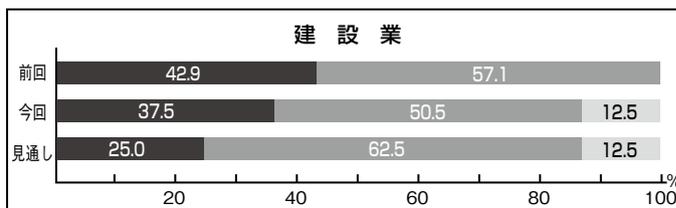
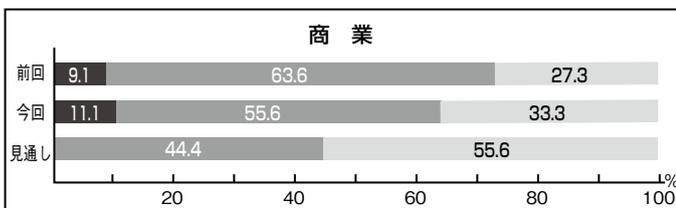
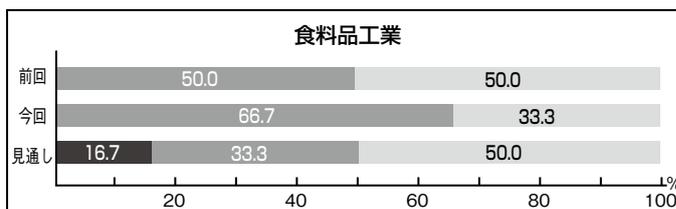
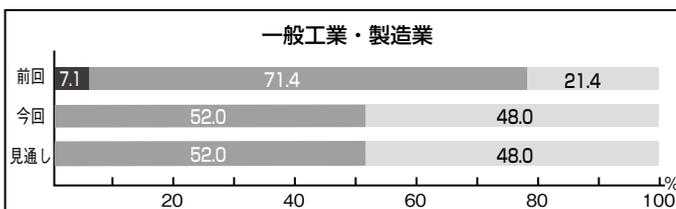
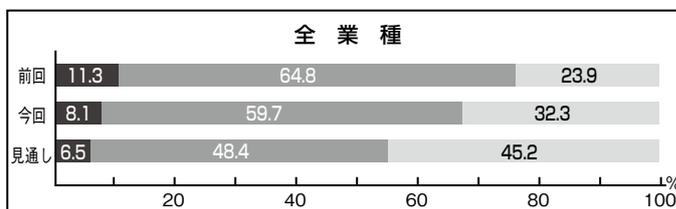
DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

全業種	業況		売上		採算		仕入単価		従業員	
	景況	DI	景況	DI	景況	DI	景況	DI	状況	人数
全業種		▲37.1		▲33.9		▲35.5		▲53.2	かなり不足	37.1
一般工業		▲56.0		▲56.0		▲56.0		▲32.0	不足	20.0
食料品工業		▲16.7		▲16.7		▲33.3		▲83.3	かなり不足	66.7
商業		▲22.2		▲33.3		▲22.2		▲66.7	不足	11.1
建設業		0.0		37.5		37.5		▲62.5	かなり不足	62.5
運輸業		▲14.3		▲28.6		▲42.9		▲71.4	かなり不足	71.4
サービス業		▲71.4		▲57.1		▲57.1		▲57.1	かなり不足	42.9

【伊丹市内企業の景気動向について】

今回の調査結果（回答 62 社）によると、令和元年 10～12 月期の景気実績は「上昇」回答 8.1%（前回 11.3%）、「下降」回答 32.3%（前回 23.9%）、景気見通しは、「上昇」回答 6.5%、「下降」回答 45.2%となった。

グラフの表示 ■ 上昇 ■ 横ばい ■ 下降



【人材の不足に関して】

Q. 人材不足に対して希望する支援は (複数回答可)

支援内容	回答数	支援内容	回答数
外国人材受入れに対する支援	9	職場環境改善のための支援	10
人材採用機会の提供 (合同面接会等)	20	高齢者活用促進のための支援	12
人材確保のノウハウに関する支援	11	生産性向上のための支援	10
女性活用促進のための支援	8	その他	1
従業員の能力開発に関する支援	11	該当なし (未回答事業所数)	25

<人材不足の状況や問題、現在講じてる対策など>

- 熟練工が高齢になり、若手への引き継ぎが完全になされていないことが大きな問題である (一般工業・製造業)
- この業種はすぐに技術を継承できるものでもなく、今の若い 30 ~ 40 歳代でも難しい (一般工業・製造業)
- 新卒採用で専門部署が無い場合、ほかの仕事をしてながら対応しているので、なかなか結果につながらない (一般工業・製造業)
- 若干の不足感はあるが、現時点で大きな影響は生じていない (一般工業・製造業)
- 数年前から継続的に外国人を採用している (一般工業・製造業)
- 上記内容の無料セミナーがいろいろあれば助かります (一般工業・製造業)
- 外国人材の派遣会社に状況把握の為に聞き取り調査を行っているほか、高校・大学に就職募集状況を問い合わせている (食料品工業)
- 地方に希望者を募っているが、今のところ返答がない (食料品工業)
- 最低賃金が上がりすぎていて、個人の受け取り金額は労働時間の短縮に伴って増加しない。中小企業の苦しさが増えるだけである (商業)
- 高齢者や女性の方になるべく声を掛けたりしている (商業)
- ハローワークのインターネット募集のみを利用している (建設業)
- インターネットによる求人広告を出しても、就職希望の応募よりも別の求人広告会社からの営業目的の電話の方が多い状況であった。結局求人はハローワークのみに一本化して、応募者を待つしかなかったのだが、幸いにも採用に至る人材と巡り会えた。(運輸業)